若者と輝ける日に向けて

次世代の担い手づくりを

当局による退職不補充方針から新規採用の抑制がされていましたが、近年各区における取組により採用を勝ち取る区が増え、最近では20年ぶりの採用を勝ち取るまでになりました。多くの区で採用を勝ち取ることで、職場で停滞していた空気に新しい風が吹いたと思います。そんな大変厳しい闘いの中で入った仲間だからこそ、職場では多くの期待と希望をもって迎え入れたと思います。しかしその一方で期待しすぎているんじゃないか、とも感じます。採用された多くの仲間は、この間の東京清掃の歴史や闘いを知らずに「公務員になりたい」「残業がない」「休みが取れる」など色々な考えをもって入ってきています。（もちろん全部知った上で入って来る青年層もいますが笑）。

そんな中、「君たちが採用されるまでに俺たちは苦労したんだ」「君たちの将来のために今から役員をやって勉強したほうがいい」などと言って組合活動を押し付けていませんか？確かに採用を勝ち取るために厳しい闘いがあったのは事実です。しかし採用された青年層側としたら自分たちの実力で入ったのに、なぜ自分たちがやらなきゃいけないのか、とも思うでしょう。そのお互いの溝を埋めていくことが次世代の担い手づくりに繋がると感じています。そのためには一人ひとりに「なぜ必要なのか」「どうして取り組むのか」をきちんと説明したうえで一緒に取り組み、また取り組みが終わった後には感想などを話し合い、学んだことを職場にどう実践していくかを一緒に考えていくことが、若い人達が主体的に取り組む仲間に繋がることだと思います。

青年一人ひとりが主人公

青年部の目的は青年自身が感じている悩みや不満を共有し、それを改善するためにはどうするか。また例え改善できなくても寄り添い、共に悩み、仲間を思いやる気持ちを育む大事な時期です。青年部は青年一人ひとりが主人公であり、決して職場の担い手になるための時期ではありません。結果として担い手になっているだけであり、青年部が担い手育成する組織ではありません。だからこそ職場の仲間として、人生の先輩として、共に闘う仲間として一人ひとりと向き合い、一緒に取り組むことが一番大事だと確信しています。

東京清掃労働組合は歴史ある組織です。しかしこの間の退職不補充、コロナ禍などの影響により職場や組織の状況は日々刻刻と変化しています。今後コロナが収束した後、組合としてのやり方は変化してもあり方は変えてはいけません。一番大事で、一番大変な、一人ひとりと向き合い、今後50年でも100年先でも全員が笑顔で退職できる職場にするため、皆さん共に頑張っていきましょう。

（品川区担当中執　髙木　陽介）

いま　No.32

清掃事業は・・・

▶▶▶▶ 品川区

都議選を目前に控え、あらためて学ぶ

6.17　中央執行委員学習会

6月17日（木）に開催した第13回中央執行委員会に於いて、都議会議員選挙を前に「違反のない選挙をどう闘うか」と題して、自治労東京都本部西岡芳宏政治政策局長を迎えて学習会を行いました。

選挙運動の定義と公職選挙違反事項、政治活動と事前運動の違いや選挙期間中における金銭支出などについて講演いただきました。また、昨今では、自由度の高いSNSを用いたデジタル選挙も闘い方の一つとなってきているとのことで、非常に効果があるとのことです。

組合として選挙にかかわることがあると思います。

が、ボランティアでの活動やLINE等の登録で選挙活動のお手伝いをしてください。

（栗澤　紀和）

トップランナー方式による算定は廃止だ

自治体現場力と公共サービスを実現する集会

地域実情に応じた公共サービスの構築を

7月4日（日）13時00分から自治労本部主催による集会が社会情勢を鑑みZOOMにて開催され、わが組合から現評清掃部会役員を中心に参加しました。

日本においては、超少子高齢化・急激な人口減少が進む中、地域実情に応じた公共サービスの構築がこれまで以上に求められています。このような中、地方自治体では、私たち現業職員が培った知識や経験を最大限活用しながら、通常の業務はもとより、災害発生時や感染症対応において、様々な役割を担い、地域住民にとって欠かすことのできない公共サービスを提供しています。こうしたことからも、職員採用については、自然災害や新型コロナウイルス感染症などに自治体現場で対応できる人員となるよう、十分な財源の確保が不可欠となります。

そうした私たち現業職員が安心して定年まで働き続けていくために、快適でやりがいのある職場づくりと労働条件の改善、継続的な新規採用を求めていかなくてはなりません。地域の実情や各自治体における検討経過を無視する、地方交付税における「トップランナー方式」は廃止すべきです。

わが組合としても引続き全区での継続的な職員採用を勝ち取るため、エッセンシャルワーカーとしての自信と誇りをもって、職場から団結して闘いましょう。

（渡辺　歩）

《ひとこと》

▼コロナ禍でのお茶の間の話題といえば、感染に関する情報やらワクチン接種の進捗状況がほとんどのようだ。世界中の人が生命の尊厳について語り合う日々が訪れたことで、離れて暮らす家族や友人、過去にお世話になった人、元恋人など、自分と関ったすべての方々の安否を案ずるようになった。それと同時に様々な記憶が脳裏に浮かんでは、戻ることのない過去に一喜一憂したりもする。

▼SNS全盛の昨今では、有名人のみならず、個人でも趣味や嗜好品から仕事の宣伝に至るまで情報を晒すことでビジネスに直結する人も大勢いる。しかし、一方ではSNS上の誹謗・中傷や人権を無視したコメント等で深く心を痛めつけられ、社会に恐怖を感じてしまう人も大勢いるのだ。

▼外出自粛や出勤抑制などの影響で、スマホ利用の機会は激増し、便利な情報は一瞬にして掌の中に入る。そんな今だからこそ、自分の大切な人、守るべき人を思い浮かべてみて欲しい。コロナワクチンで救える命もあれば、そのスマホ一つで救える命も時にはあるのだから。

（世田谷区担当中執　徳山　清治）